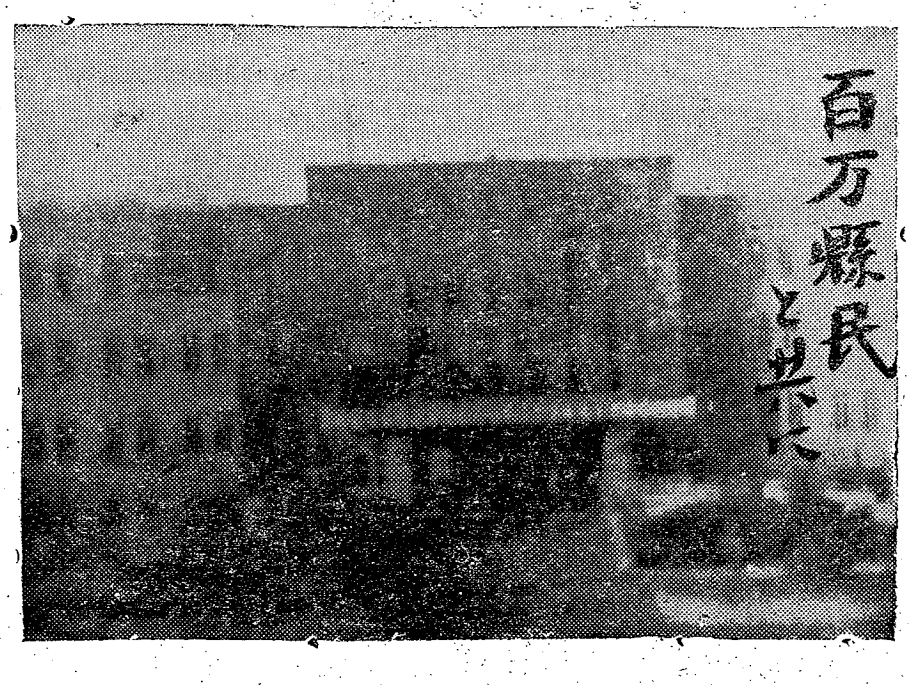


輝く希望の歳を迎えて

和歌山縣知事　小野眞次

東天の將に明けんとするにも似た新生日本第五回の幸多き新年を迎えるに當り、紙上を通じ親愛なる縣民各位に御祝辭を申し上げることは私の衷心欣快とするところであります。

過ぎ去つた昭和二十四年は連合國軍司令部から指令された所謂經濟九原則實施のために終始した年でありました。本縣においては、直ちにこの基本國策に呼應し、地方議會並びに民間識者を煩わし經濟安定委員會を設けて幾多の施策を講じましたが、これがため重公課の負擔、金融のこうさく、企業の經營難等々あらゆる苦難を縣民各位に忍んで頂きました。最近に至り漸くその效果の曙光を見るに至り、自由物價の騰勢は停り惡性インフレは止み、輸出生産の態勢も徐々に整わんとする傾向を示すに至りました。是れ全く縣民諸君が冷靜明智よくその趣旨の存するところを理解し、國家經濟の根本的立て直しの大業に協力を吝まなかつた結果でありまして、私の深く敬意と感謝を捧げるところであります。

惟うに現下我が國民當面の責務は速に民主主義の理念に徹底し、一日も早く眞に人類の理想とする平和的文化國家をこの國土の上に顯現することにあるのであります。これがため昨年は縣下各市町村に亘り、多大の日子と勞力と經費を費して成人講座を開設し、廣く全縣民に對する啓蒙運動を展開したのでありましたがこれにより新憲法の期待する日本國民たるの自覺と自治市民たるの訓練をしん透し得たことは、前述經濟安定委員會の成果と共に誠に喜ばしい躍進的業績であつたと思うのであります。而して本年はこれらの基礎工作の上に立つて眞に國民幸福の緒口が開けて來るべき年であると信ぜられるのであります。

今や講和條約の締結も愈々本年中に行われるだろうとの觀測も世界のこゝかしこに噂せられ、國際關係の漸開、貿易面好轉の朗報など頻りに傳つて參つて居りますことは御承知の通りであります。斯の如く各種各方面の材料を綜合して見まして今年こそ更に誠意と精力を傾倒して是非とも各位の信倚に酬いたいものと深く心に期しています。百万縣民各位に於かれ

茲に希望に輝く昭和二十五年の元旦を迎えて、先づ第一に百萬縣民各位の御健康を祝福し、併せて益々御多幸をお祈りする次第であります。諺にも「一年の計は元旦にあり」と申します、意義一入深い年頭に當り所感を披瀝して、縣民各位に新年の御挨拶といたします。顧みれば、終戰後五度び訪れた平和の新春であります。劍を捨てペンを持つて立ち上つた吾々は世界に比類を見ない文化國家として、人類の繁榮に貢献せんと雄々しく發足したのでありますがその熱意は、日を追うて認められ、理解ある各國の援助と協力によつて、一新一歩その目標に向つて前進しつつあることは誠に御同慶に堪えません。然しながら吾等の目指す彼岸は遙かに遠く

年頭の辞

和歌山縣議會議長　内田安吉

怒濤逆卷く大洋を乘り切るには、文字通り不撓不屈の努力を要することは申すまでもありません。殊に我が和歌山縣の如く、年々歳々招かざる天災に見舞われ、思わざる失費を余儀なくする縣に於ては、その復舊に巨額の經費を要し、ために爲さねばならぬ多くの新規事業の如きは極めて實現困難とされている實情であります。斯る情勢下に於きまして、縣民の福祉を増進し、建設的積極縣政を遂行してゆくには、縣民一致協力、忍び難きを忍び堪え難きに堪えて所信に邁進せねば到底この難局を突破することは至難と存ずるのであります。本年は税制の改革によつて、多年待望の地方自治体の税收入は強化安全し、從來の中央依存主義から地方自立の方向に一歩前進し得ることは一面經濟界の安定感と、人心の平靜など相俟つて、縣政の前途にも一道の光明を認め得ることは喜ばしきことと存ずる次第であります。この時に當り、過去三年に亘る縣議會の歩みを顧みて、縣民總意の示す處は自ら冶山冶水、道路の整備、商工農水産業の振興等に要約されると思わるるのであります。縣議會はこの指標に向つて最善の努力を捧げ以て民主縣會の本分を盡したい念願であります。不肖乏しきをもつて縣會議長の重責に任ずること三年、大過なく、その責を果たし得ましたことは、偏に同僚議員諸君の御協力と縣民各位の御支援御鞭韃の賜と存じまして、此の機會に深く感謝の意を表すると共に吾等に負荷された殘余の任期に對しては滿身の勇を皷して創意工夫をこらし縣政の進展に微力を捧げん覺悟であります。

切に縣民各位の御支援と御鞭韃を希つてやまない次第であります。

縣民の皆さんへ 新春のことば

教育長　村上五郎

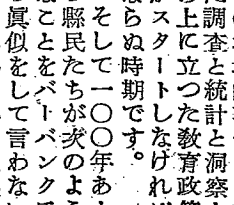
一九四六年版の「活動している教育委員會」と言うアメリカの本の序言の中にイタリツクで書かれたルーキー・バーバンク氏の言葉をは興味深く讀みました。

「もし我々が我々の子供たちに向ける程も固さを加えました。健康も完璧であります。今年こそ更に誠意と精力を傾倒して是非とも各位の信倚に酬いたいものと深く心に期しています。百万縣民各位に於かれましてもこの新しい年をして祖國再建途上の輝かしい年たらしむべく格段御精勵の上縣政の爲にも更に一層の御支援を賜わりますよう切に念願して新年の御挨拶といたします（終）

教育委員會は生誕してからようやく一年あまりを過したばかりです。一体教育委員會は何をこの間にしとげたのかと疑う人もありましょう。その通りです。しかし又急に、そう多くをどうしてできるのかとも思います。

縣行政と言う大きな樹から、ひとつの嫩枝――教育行政――を移植して、伸々と若木のしげりを見せようとするにはそれを育てる土壤の肥沃度が保證されぬばなりません。教育上の改革と言う日照りを十分に受けてこの若木を育てゆくには縣民と言う庭師の大きないたわりと辛苦に俟たねばなりません。

縣知事――縣議會――縣民のご努力にも拘らず、今のところの若木はようやく枯死を免れている程度です。論よりしようこ、現在教育委員會が執行している教育豫算の内容を眺めて下さい。それは皆さんのお子さんたちの、皆さんの社會の教育を細々と辛うじて維持しているにすぎないのです。



私は公選の七人の教育委員たちが、この若木の枯死を免れさせようとしていられる奮闘ぶりを見て胸が熱くなる思いをしています。

しかしこの努力が更に一歩進んで、もつと積極的な教育政策の樹立とその實施に振り向けられるようになつたら、それはどんなすばらしい結果を産むでしょうか。

しかし去年は或いは今年も、今しばらく日照りに耐えて移植した若木の生命の維持だけに教育委員會はそのエネルギーの大半を消耗するかも知れません。しかしその勞多い仕事のうちにあつても、新しい芽生えはすでに萠すべきです。科學的に立案された、從つて未來を見つめながら、縣下の地域的事情に即した調査と統計と洞察との上に立つた教育政策がスタートしなければならぬ時期です。

そして一〇〇年あとの縣民たちが犬のようなことをバーバンク氏の眞似をして言わないようにしたいと思います。

「我々の祖父母は、現在我々が我々の植物たちに向ける程もの注意を、その子どもや孫たちに拂わなかつたため、現在我々は他府縣に見られない様な人材皆無の沙漠の中に住んでいる」と。

和歌山縣民の友

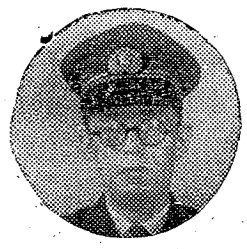
發行所
和歌山市小松原通
和歌山縣廳秘書課
編集兼發行人
森慶三
印刷所
和歌山縣印刷所
定價㊎1部2圓50錢

本年中に供米100%完遂

▲長松も親の名で來る年賀かな。▲理想もなく年百年中ノラリクラリとだらしなく暮す者には正月の眞味は分らぬ。▲過ぎた一歳の苦心の足跡を省み心の隅に積つた百八の煩惱を除夜の鐘に洗い清めてから迎える元旦氣分というものは又格別だ。▲無始から無窺につゞく「時」の流れを良い加減に區切つたのが正月じゃ無いかなど理屈を言えばそれまで。▲だが妙なものでサテ正月ともなれば軒端の雀の聲までも芽出たく煤けた天井までが今日ばかりは何となく明るい。▲お屠蘇氣分の中にほのぼのと湧く「今年こそ」という新しい希望に躍る心持、これ程神聖なものは又とあるまい。▲サア終戰五度目の新年だ。▲經濟九原則もシャウブ勸告も愈々そろ〳〵その効き目が現われ始める年なのだ。▲苦しいのも今暫くだ。當座の我慢だ。希望の光はソレ眼の前に見える。▲富士山へ登つても苦しいのは八合目だ。胸突八丁の嶮を踏破してこそ初めて頂上の御來光が拜めるというもの。▲晴着を着て街に遊ぶ兒女の顔色を見ても僅か一年の間に如何に各方面の復興が急テンポに進みつゝあるかが分ろう。▲それに更に〳〵拍車をかけようというのが昭和廿五年の我々の責務だ　（M）

皆さんの御期待に添う警察を

國家地方警察和歌山縣警察隊長
波若敏郎



明けましておめでとうございます。昔の人が「門松や冥土の旅の一里塚、目出度もあり目出度もなし」と言つたという事もありますが私は敢えておめでたいと申上ます。終戰后五年目の新年であるというのにこの様なうらゝかな元日を迎える事が出來るという事は全くおめでたい限りであります。

勿論敗戰后の國家經濟としていろ〳〵の苦痛はありますが之は國民全体の責任としてこの苦しみに耐えつゝ徐々に經濟復興に邁進すべきではないでしようか。その方法については之亦民主々義の原則に從つて多數の人々の意見によつて決定せらるべきでしよう。

この様な一般の人々の努力にも不拘、所謂犯罪を犯す人があつて善良なる人々の經濟生活をおびやかし、時にはその生命身体に害を加える者のある事は大變に遺憾な事であります。之等の惡德の者を除いて縣民の皆さんが安心してその業に就かれるようにする事が私達警察に職を奉ずる責任であります。

昨年中も私達としては出來る丈皆さんに奉仕するつもりで努力を致しましたが皆さんから考えられたら手緩いこともあり不十分のこともあつたと思います、犯罪の檢擧率は遂次上昇を致して居ります。限られた人數と豫算との中で少しでも能率を上げ度と念願して居ります。所謂科學的捜査という事についても研究と努力を續けて居ります。警察官の民主的教養という事についても腐心致して居ります。

犯罪の防止檢擧及び民主警察の養成という事については是非皆さんの御協力を得なければ出來ない事であります。本年は之等のことについて御氣附の事があり御申出を遠慮なく御願い度と思います。

皆さんの御期待に添う警察を作りあげる覺悟で居ります。

本年こそは經濟の上にも道義の上にも數年間を一まとめにするような大躍進を遂げよう（完）

郷土の四季の行事

久世山家

若水

若水ということばには文字通り新鮮な感じと、ふくよかな味がある。然しもうこの言葉も既に古語化してしまい、若水迎えの行事は今では余程古風な家でないと行わないようである。元旦に一家の主人が先だつて起き出で水を汲む。前頃まで日高の田舎に殘つていた若水の行事を紹介すれば、暗いうちに主人が松明を照して、歲德神の方を向いて「新玉の年の始めでたい」と三唱して水を汲みこの水で家内一同が洗面し、又雜煮をたく。

（この時の松明の燃え殘りは保存しておいて雷の烈しい時にこれを電光に向つて投げかければ雷が鎭まるという俗信があつた）若水迎には又、桝に米、餅、干柿、蜜柑などを入れて井戸端に供える地方もあつた。若水の行事の起源は平安朝時代に立春の日に天皇が御自身で水を汲み、これを飲んで邪氣を拂われたことからおこつたのであり、初めは春水と稱していたが、漸次民間の行事となり、德川時代に最も廣く行われたものである。

七草粥

私は和歌山在の生れであるが、私の家では大正の半ば頃までは七草のはやしことばを唱えた。

唐土の爲と日本の鳥と渡らぬ先に七草なずな鍋へ入れてガチヤ〳〵

と言いながら、春の七草といつてもそのうちのナズナとスズシロつき臼、農具などにシメナワの飾られているのは、まことになつかしい風景である。

正月のしめかざり（注連飾）は極めて簡單になつたが、今でも大体行われているのはお見かけの通りであるが「蓬萊に聞かばや伊勢の初だより」と詠んだ芭蕉翁の時代などの蓬萊（正月の飾り物）は中々こつたもので、松竹梅を三方に立て、紙を敷き、白米、シダ、昆布、讓り葉などを布いた上に、橙、蜜柑、かち栗、串柿、伊勢海老などを置いたことが當時の書物からわかる。

田舍邊の井戸端や米の磨ぎ桶などにも道義の數年間を一まとめにするような大躍進を遂げよう

ではありませんか。皆さん大いに元氣を出して頑張りましよう。

（大根の葉）又は他の菜ッ葉だけであつた——をまな板の上に置いて火箸、すりこきなどをおいてなるべくやかましく音を立てるようになつていたこれは六日の宵にやるのであるが所によつては七日の朝の六つ時に行つたようである。然し七日の朝のナズナ粥の風味は少年の私共にはわからなかつた。何だかなまぐさい樣な心持がして私にはいやであつた。

「唐土の鳥」の囃子詞は地方によつて少しずつ異つていて、最も理窟にあうのは

唐土の鳥が日本の土地へ渡らぬ先に七草なずな

という唱え方であるが、日高の龍神あたりでは

なずな七草鳳凰の鳥が日本の國へ渡らぬ先に垣してバツク〳〵

といつたという。いずれにしても今の若い人々にはオカシクツテ一蹴されそうであるが、私共以上の年輩の人々には、こゝにあげた囃子詞をお讀みになつたら、一種の鄕愁といつたようなものを感じられる筈である。

十日戎

十日戎は縣下全般の海濱に多い祭であり、田邊の蓬萊山三敬院の蛭子廟などよく賑わつたらしいが、何といつても和歌山市湊の蛭子さんは縣下隨一の賑いであつた。宵戎から始まつて本戎まだ翌日の殘り福などと蛭子さんは一年の費用をこの機にかせいだのである。

湊の蛭子さんが戰災にあつたので、終戰後東和歌山に近い吉田の聖天宮に蛭子さんを祀り、東の戎と稱してやり出されたが、昨年は湊の戎祭も復活し兩方で行われるようになつた。海南市日方の戎さんは二十數年前から行われているが近年は非常な賑いである。

吉兆（これを紀州全般にキツキヨウといつているこれが十日戎につきものである。のし飴に口を眞赤にした子供を見ると自分の少年時代を思い出す。

トンド（左義長）

正月十五日に（所によつては十四日に）松の内の注連飾を燒くのがトンドであるが、これも殆どすたつてしまつた。然しトンド又はドンドという言葉は各地に殘つていて、冬の朝など炭の空俵や藁などでたき火をすることをいうのはその名殘りである。

昔は子供らが「オエサン、ダンサン、シメナワ、クダセ、トンドヘアゲル」と口々にいつて貰いたに廻つたという。

トンドの起源は、平安朝時代に朝廷で行われた左義長から來ている。即ち正月十五日、天皇が書初めや扇子、短冊などを青竹に結びつけて陰陽師をして燒かれた餅を食べると腫物がなおるという俗信があつたようである。

小豆粥

正月十五日は又小豆粥の日で古風な家では今も行つているようである。この粥をたいた時の木で、嫁の腰を打つと子供が出來るという民間信仰があつた。宮中でも平安朝時代に正月十五日に粥の木で女官などを打つたことは清少納言の枕草子に面白く描かれている。

日頃つつましやかな宮中の人々もこの日は笑いこけて朗かな一日を過したことが想像出來る。さしづめ西洋の四月一日のエイプリル・フールにも比すべき日である。

又この粥を果樹に供えてなら切ろうなら木の幹をナタで傷つけるので、和歌山近在でも明治末葉まで行つた家があつたから、南の方の山間などでは、もつと後まで行われたことと思う。

十六日の藪入り（語源は養父入り）二十一日の初大師など今でも行われているし、まだ書くべきことが多いが、あまり長くなるからこの程度にしておきたいが、終に、太陽暦が明治五年から行われ出したが、今でも陰暦相當はばをきかせている地方が多いから、こゝにあげた正月の行事も新でやる所もあれば舊でやる所もあることを附記しておく。

正月賀

和歌山縣知事　小野眞次
和歌山縣副知事　荒木和成
和歌山縣出納長　井口正夫
和歌山縣部課長一同
和歌山縣各廨長一同
和歌山縣職員一同

和歌山縣議會議長　內田安吉
和歌山縣議會副議長　的場鹿五郎
和歌山縣議會議員一同
和歌山縣議會事務局一同

和歌山縣教育委員長　楠本圓一郎
和歌山縣教育委員會委員一同
和歌山縣教育長　村上五郎
和歌山縣教育委員會一同

和歌山縣公安委員長　關榮覺
和歌山縣公安委員一同
和歌山縣警察隊長　波若敏郎
國家地方警察和歌山縣本部一同